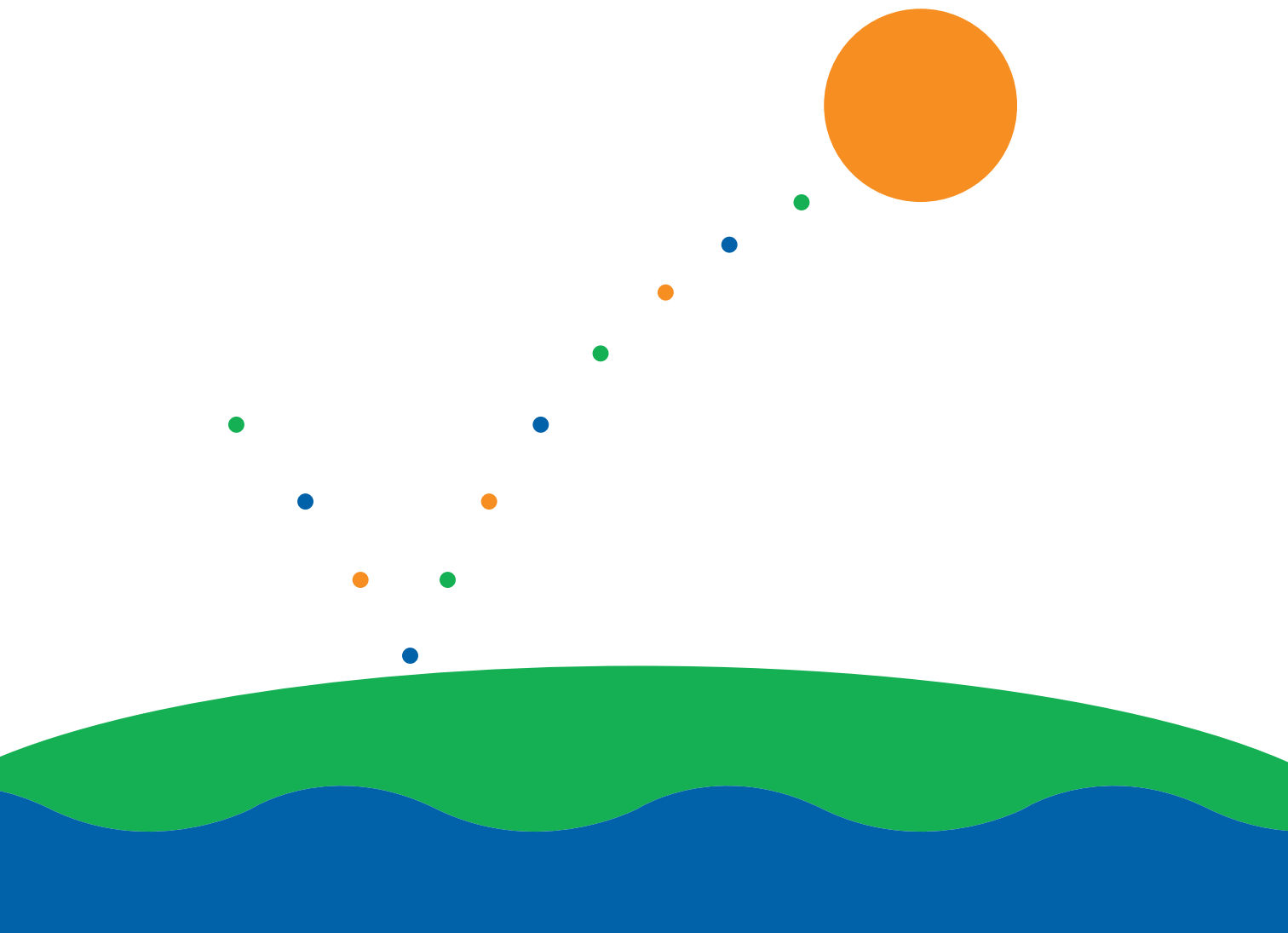


modulat

modulat

ENTERPRISE SUMMARY

2009.6.1-2010.3.31





モジュール株式会社は、2000年4月にPC/PCサーバーに特化した企業の情報システム部門のアウトソーシングを主業務として発足いたしました。以来、常に「お客様にとって何が最適か？」を自問自答し、妥協のないサービスを提供し続ける事で、高い信頼と評価を頂いております。当社の強みは、特定のメーカーや製品に縛られず常にお客様に最適なサービスやシステムをご提供可能な「中立性」、それらをお客様のご要望に応じてフレキシブルにご提供出来る「オーダーメイド型サービス」、その為に情報システム部門が抱える業務のアウトソースに特化した「利用技術の専門性」、そして「お客様との継続的な関係性」です。私達はこれからもお客様と共に成長していく為に、このスタンスを守り続け、そして磨き続けてまいります。

また、創業10年を迎え、お客様、株主様をはじめとする全てのステークホルダーの皆様のご支援・ご信頼に対し、あらためて感謝申し上げます。

さて、当社の2010年3月期ですが、低迷する経済環境の中、前期の赤字業績以降の営業方針であった「本業である継続ITサービスへの集中」「契約の長期化・大型化」に社員一丸となり取り組んだ結果、V字回復・黒字化を達成出来ました。特に当社の本業である「継続ITサービス」は前年対比15.7%増と創業以来成長し続けており、営業利益率も9.8%と高水準に回復しております。

しかしながら、当事業年度の社内調査で「過年度の一部固定資産の会計処理の間違い」が判明し、過年度決算を訂正した結果、課徴金納付命令を受けております（2010年5月に納付）。本件については、ご関係者の皆様にご心配、ご迷惑をお掛けした事を心よりお詫び申し上げ、又、経営体制の強化等を行い再発防止に努めることをご確約申し上げます。

2011年3月期は、今後10年のITサービス市場を見据え、その第一歩とすべく、現在の回復した事業基盤の更なる強化と復配に向け、役職員一同、堅実な挑戦を続けます。今後とも、継続的な事業の成長、企業価値の向上、そして上場企業の社会的な責任の全うに努めてまいりますので、より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2010年6月

代表取締役

松村 明

当期の概況

減収増益、堅実にV字回復、利益率向上

景気悪化に伴う新規IT投資の抑制や繰延の中、本業集中による競争力の向上、コストの適正化効果を得て、黒字化を達成。決算期変更に伴う経過期間として10ヶ月決算であるが、営業利益で96百万円を計上。営業利益率も9.8%と高水準に回復。

ITサービス会社への回帰、継続サービスは増加

経済環境により当社としての競争力に乏しい商品販売は激減しているものの、ITサービス比率80%超と本業回帰を果たす。特に年間継続サービス契約額は8億円強と創業以来増加し過去最高額。サービス契約維持率も99%超と堅調。

過年度会計の誤処理の訂正、適正コストの維持

過年度の一部の固定資産の計上に間違いが発覚し、課徴金を科される。業務効率化、事業構造改革、資産や資本提携の整理などの施策により獲得したシンプルな資本構造・業務構造を維持し、ビジネススピードを上げる基礎を整備。

次期の見通し

堅実な収益構造を強化、将来への布石も

景気持ち直しも見えつつある現在、それに頼ることなく、現在の堅実な収益基盤をより強化し続ける。その上で、IT投資の再開等に伴う一過性ビジネスの収益は、今後10年を見据えた新しいサービス、次世代の人材育成などに徐々に投資し、将来への布石とする。

ITサービス、継続サービスへの更なる特化

競争力を維持しているITサービス、継続ITサービス契約の長期化、安定化、大型化に挑戦し続ける。特にお客様企業が今後求める新しいITサービスに積極的に取り組む計画。

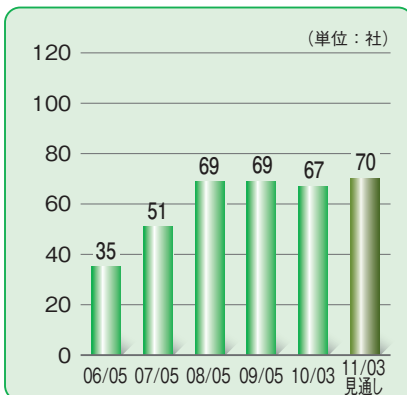
経営体制の強化、より筋肉質な企業へ

経営体制の強化（取締役会の強化、監査役会の新設、会計監査人の設置、教育の拡充など）を行い、誤った会計処理等の再発防止や上場企業の社会的責任を果たす。シンプルな資本構造・業務構造を維持し、早期の復配を目指す。

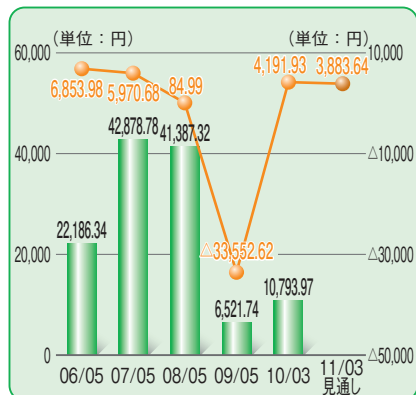
■ 年間継続契約額



■ 顧客数



■ 1株当たり純資産額および1株当たり当期純損益



財務諸表 Financial Statements

■ 貸借対照表 (要旨)

(単位：千円)

| 科 目 | 第10期 (2009年5月31日現在) | 第11期 (2010年3月31日現在) |
|--------------|------------------------|------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | 480,053 | 334,403 |
| 固定資産 | 777,929 | 682,303 |
| 資産合計 | 1,257,983 | 1,016,706 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | 656,402 | 409,820 |
| 固定負債 | 501,965 | 459,009 |
| 負債合計 | 1,158,367 | 868,829 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | 91,966 | 149,396 |
| 資本金 | 254,219 | 254,219 |
| 資本剰余金 | 154,217 | 154,217 |
| 利益剰余金 | △316,470 | △259,041 |
| 評価・換算差額等 | △2,619 | △1,518 |
| その他有価証券評価差額金 | △2,619 | △1,518 |
| 新株予約権 | 10,268 | — |
| 純資産合計 | 99,615 | 147,877 |
| 負債純資産合計 | 1,257,983 | 1,016,706 |

■ 損益計算書 (要旨)

(単位：千円)

| 科 目 | 第10期 2009年6月1日～ 2009年5月31日 | 第11期 2009年6月1日～ 2010年3月31日 |
|------------|----------------------------------|----------------------------------|
| 売上高 | 1,381,218 | 978,248 |
| 売上原価 | 1,097,142 | 715,899 |
| 売上総損益 | 284,075 | 262,349 |
| 販売費及び一般管理費 | 274,162 | 166,240 |
| 営業損益 | 9,913 | 96,108 |
| 営業外収益 | 8,039 | 9,983 |
| 営業外費用 | 259,021 | 12,913 |
| 経常損益 | △241,068 | 93,178 |
| 特別利益 | — | 10,268 |
| 特別損失 | 219,169 | 45,775 |
| 税引前当期純損益 | △460,238 | 57,671 |
| 法人税等合計 | △567 | 241 |
| 当期純損益 | △459,670 | 57,429 |

貸借対照表 POINT

- ・流動資産
決算期の変更により、例年4月に計上されていた前受金が期末時点で計上されていないため、現預金の減少等により、流動資産が減少いたしました。
- ・固定資産
有形固定資産の減価償却、本社移転による敷金の減少等により、固定資産が減少いたしました。
- ・負債の部
決算期の変更により、例年4月に計上されていた前受金が期末時点で計上されていないため、流動負債が減少いたしました。

損益計算書 POINT

- ・商品売上は景気後退の影響を受けて厳しい事業環境が続いたものの、主力事業である「継続ITサービス売上」は堅調で、「コスト適正化計画」の効果もあり、着実に利益を計上することができました。

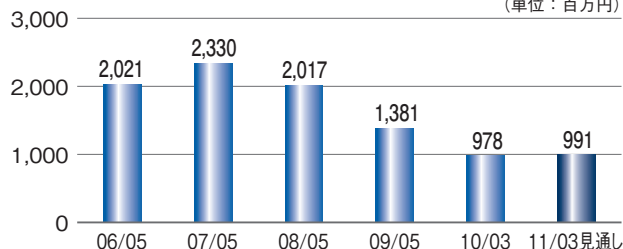
■ キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(単位：千円)

| 科 目 | 第10期 | 第11期 |
|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| | 2008年6月1日～ 2009年5月31日 | 2009年6月1日～ 2010年3月31日 |
| 営業活動による キャッシュ・フロー | 273,297 | △158,599 |
| 投資活動による キャッシュ・フロー | △468,486 | 10,495 |
| 財務活動による キャッシュ・フロー | 6,864 | △33,307 |
| 現金及び現金同等物の 増減額 (△は減少) | △188,324 | △181,410 |
| 現金及び現金同等物の 期首残高 | 435,520 | 247,196 |
| 現金及び現金同等物の 期末残高 | 247,196 | 65,785 |

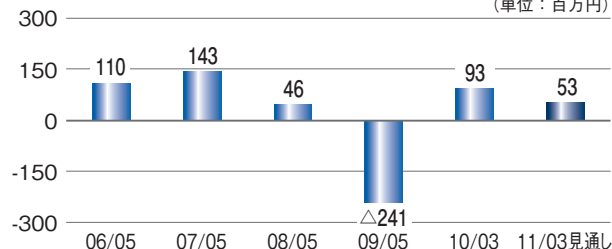
■ 売上高の推移

(単位：百万円)



■ 経常利益の推移

(単位：百万円)



■ 株主資本等変動計算書 (要旨)

(単位：千円)

| | 株主資本 | | | | 評価・換算差額等 | 新株 予約権 | 純資産 合計 |
|----------------------------|---------|---------|----------|---------|--------------|-----------|-----------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | 利益剰余金 | 株主資本合計 | その他有価証券評価差額金 | | |
| 平成21年5月31日残高 | 254,219 | 154,217 | △316,470 | 91,966 | △2,619 | 10,268 | 99,615 |
| 事業年度中の変動額 | | | | | | | |
| 新株の発行 | | | | | | | |
| 剰余金の配当 | | | | | | | |
| 当期純利益 | | | 57,429 | 57,429 | | | 57,429 |
| 株主以外の項目の事業年度 中の変動額 (純額) | | | | | 1,100 | △10,268 | △9,167 |
| 事業年度中の変動額合計 | — | — | 57,429 | 57,429 | 1,100 | △10,268 | 48,261 |
| 平成22年3月31日残高 | 254,219 | 154,217 | △259,041 | 149,396 | △1,518 | — | 147,877 |

[Q] モジュールの業務内容を分かりやすく教えてください。
 「企業の情報システム部門に代わって管理業務やサポート業務を行う事」です。派遣ではなく業務を請負う契約です。上場企業をはじめとする顧客企業から、年間で約8億円の継続的なサービス契約を頂いています。大企業の場合でも基幹システムや大型コンピューターに詳しい方は多いのですが、モジュールが得意とするパソコンやPCサーバーは、手間が掛かり煩雑な為手が回らないのが実情ですから、ニーズは多いのです。また、この契約を中心に様々なITサービスをご提供しています。お客様からは「コンピューターメーカーの系列に偏らない中立性」と「企業の中でITをどう使うかという利用技術分野の専門性」をご評価頂いています。

[Q] 大手メーカーやシステムインテグレーターとの違いは何ですか？

大手メーカーはやはり大型コンピューターが得意でし、それに自社製品のサポートが中心ですから、多くのメーカーの製品で構成されていて、小回りが利く対応を求められるパソコンやPCサーバーはあまり得意ではないのでしょうか。現場で競合する事は驚くほど少ないのです。推測ですがお客様が大型はメーカー、小型はモジュールというように分けてお考えなのではないでしょうか。また、システムインテグレーターはシステムの開発や構築が得意で、その後のメンテナンスは得意ではありませんし、自社で開発や構築したシステムのみサポートすることが大半なのです。

[Q] 今期、創業10周年を迎えました。振り返ってみていかがですか？

大まかに申し上げますと、クライアント数は20倍、売上は3倍、利益は6倍、社員は6倍になり、大きく成長しました。成長と株式市場に伴い様々なルールや仕組みも整備され組織化された半面、ベンチャーマインドや業務スピードが低下した時期もありました。そして、このような言い方は誤解を受けるかもしれませんが、一昨年来の不況で前期の業績が悪化した事は、私達に大切な事を思い出させてくれました。それは、「モジュールの全ては顧客企業のITの安定と効率化の為にある。」ということです。これを頑なに守り本業に集中した事で利益等も回復してきました。今後も「創業以来、本業としてきた「企業向けITサービスの専門企業」である事」を忘れず、「守るべきは守り、変えるべきは変え、堅実性と柔軟性を両立させていきたい」と考えています。

[Q] 来期、特に力を入れようとしている分野はありますか。今後10年のITサービスを見据えた新しいサービスへの取り

組みや次世代の人材育成を進めてまいります。また、技術サービス担当、営業担当、管理担当メンバー全員が現場での業務をフォローする意識を持ち、全社一体となってお客様へのサービスを向上させることにも重点を置いてまいります。さらにチーム経営を充実させて経営体制の強化を図ります。

[Q] モジュールの目指す企業像とは？

モジュールの夢は「小型コンピューターの基盤環境の利用技術分野に於いて日本有数のITサービス企業」になる事です。もう少しわかりやすくいうと「日本の多くの企業の方々にモジュールの安定したIT環境をご利用頂き、パソコンやサーバー、ネットワーク等でご苦労される事をなくしていく事」です。また、モジュールの共有理念である「責任ある自由の共存」を旗印に、自由闊達な新しい企業環境の創造を夢見ています。

[Q] 最後に一言お願いします。

私共、モジュールのビジネスは一見派手さはありませんが、お客様企業と長くお付き合いし、長期間に渡り段階的に成長が見込めるビジネスです。受注残に代表されるように経営指標に使用されない強みも多く、一般的指標には表れにくいのですが顧客基盤や財務内容も長期的安定性が高いと自負しています。株主様をはじめとする関係者の皆様にも、どうか中長期的な視点で弊社をご支援賜りたく謹んでお願い申し上げます。

当社ホームページにて、今後も積極的に情報を掲載いたします。ぜひご覧ください。

(<http://www.modulat.com>)

皆様のご意見を寄せいただきますよう、よろしくお願いいたします。



■ 会社概要 (2010年3月31日現在)

会社名 モジュール株式会社
所在地 〒102-0074
 東京都千代田区九段南三丁目2番7号
 TEL : 03-3556-2461
 FAX : 03-3556-2462
設立 1999年9月
資本金 254百万円
従業員数 41名

■ 役員 (2010年6月28日現在)

代表取締役 松村 明
取締役 木原 礼子
取締役 藤井 隆徳
常勤監査役 山田 義範
監査役 河邊 義正
監査役 近 暁

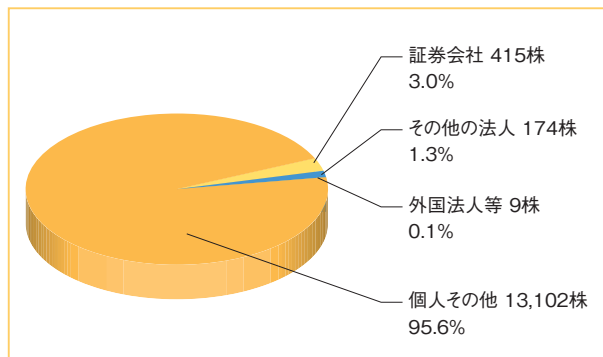


■ 株式の状況 (2010年3月31日現在)

発行可能株式数 20,000株
発行済株式の総数 13,700株
株主数 662名

| 株主名 | 持株数(株) | 持株比率(%) |
|------------|--------|---------|
| 松村 明 | 5,233 | 38.2 |
| 高松 忠行 | 655 | 4.8 |
| 木原 和彦 | 650 | 4.7 |
| 菅原 敏彦 | 650 | 4.7 |
| 門村 研三 | 650 | 4.7 |
| 大阪証券金融株式会社 | 284 | 2.1 |
| 松村 富美子 | 270 | 2.0 |
| 飯塚 麻実 | 261 | 1.9 |
| 齋藤 嗣雄 | 250 | 1.8 |
| 石原 幸久 | 228 | 1.7 |

所有者別株式分布状況



| | |
|---------------|--|
| 事業年度 | 毎年4月1日から翌年3月31日まで |
| 定時株主総会 基準日 | 毎年6月開催 定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日 そのほか必要のあるときは、あらかじめ公告して定めた日 |

【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、下記の電話照会先にご連絡ください。

| | |
|-------------------------------|---|
| 株主名簿管理人 および 特別口座の口座管理機関 | 大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社 |
| 株主名簿管理人 事務取扱場所 (郵便物送付先) | 東京都中央区八重洲二丁目3番1号 住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部 |
| (電話照会先) | ☎0120-176-417 |
| (インターネットホームページURL) | http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html |

【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開設いたしました。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

| | |
|---------|---|
| 公告の方法 | 当社のホームページに掲載する http://www.modulat.com |
| 上場証券取引所 | 大阪証券取引所ヘラクレス |

株主の皆様の声をお聞かせください

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、

アンケートを実施いたします。

お手数ではございますが、

アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。



<http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 3043



携帯電話からも
アクセスできます QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、右のQRコードからもアクセスできます。



空メールにより
URL自動返信 kabu@wjim.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。



●アンケート実施期間は、本誌がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を進呈させていただきます



※本アンケートは、株式会社エーツーメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社エーツーメディアについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>)
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」TEL:03-5777-3900(平日10:00~17:30) MAIL:info@e-kabunushi.com

モジュール株式会社

〒102-0074 東京都千代田区九段南3-2-7
COI九段三丁目ビル2F